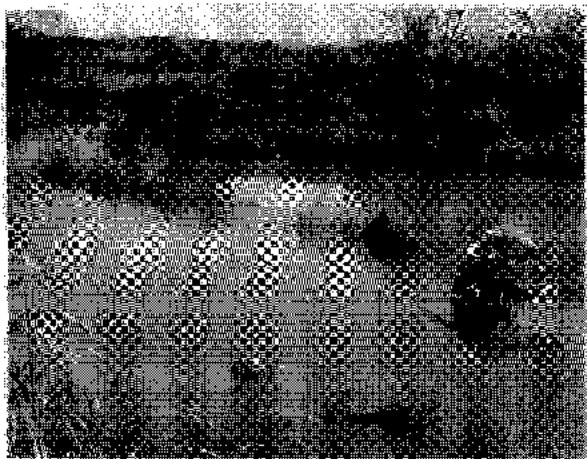
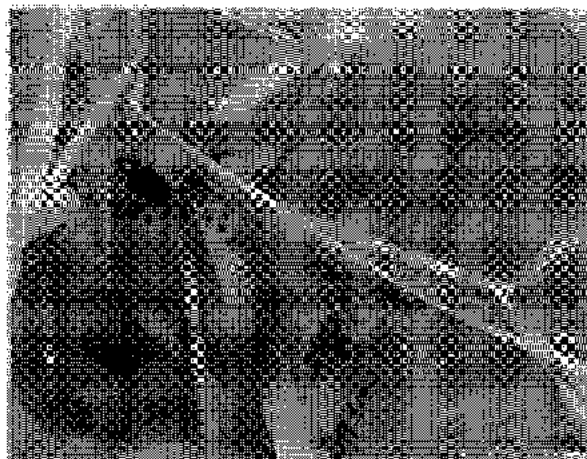


平良市長間地区



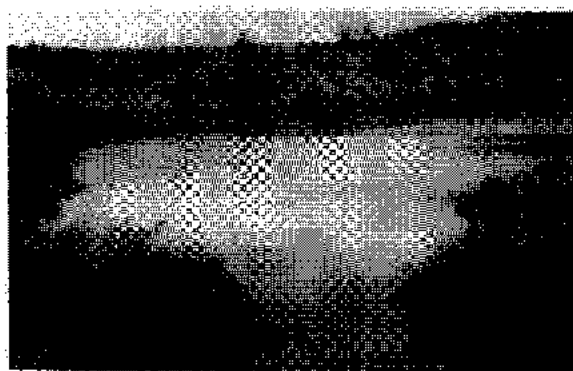
小さな溜め池



卵塊（尾芽胚期）



ミヤコヒキガエルの幼体



城北町マイダービーチの小さな池

図5-6 宮古島における実態調査

この池にミヤコヒキガエルの多くの卵塊を見つけた。このことは、一見、どこにでも卵を生むだけのカエルが生息していると考えられるが、逆に、そのような池にも産卵しなくてはならない状況にあるとも考えられる。宮古島は雨が多いものの湖沼がほとんどなく、雨水が溜まった小さな池を利用してカエルが産卵し、幼生は変態するまでそこで水中生活を送ると思われる。従って、雨不足で水が干上がってしまえば幼生が死滅することは明らかで、宮古島のカエルの生息数は降雨量に大きく左右されるものと推測される。宮古島の固有亜種であるミヤコヒキガエルは、この島ではかなり厳しい環境の中で生きていると考えられるが、南大東島では天敵もいなく、工業化や宅地化も進んでいないことから、環境はかなり恵まれている。宮古島に比べ南大東島は稀少種を残すひとつの方法を提示しているのかもしれない。

③沖縄本島北部

沖縄本島北部、やんばる（山原）にはスタジイを優占種とする常緑広葉樹林が広がっている。この地はスタジイ自然林と米軍北部演習場があり、中央山脈西側には自然林がわずかしかない。中央山脈東側には樹齢30年以上のスタジイの自然林があるが、その殆どが米軍北部演習場となっている（図6-1）。幸運なことに北部自然林が米軍演習場と重なっているため、稀少動物の生息場所が観光土地開発などによる環境破壊から免れてきた。しかし、米軍基地の移転に伴う土地開発、並びに沖縄本島の住民のための貯水ダム建設や工事用の大規模な林道建設が計画されている。やんばるの森には世界で唯一この地域だけに棲む固有種（例えば国天然記念物のヤンバルクイナやノグチゲラ）がいる。環境省レッドデータブック（1997年）によれば、やんばるに棲む絶滅危惧種・危急種は、哺乳類では14種中3種、鳥類では54種中5種、爬虫類・両生類では9種中4種、昆虫類では38種中2種となっている。爬虫類では国天然記念物のリュウキュウヤマガメと県天然記念物のイボイモリ、両生類では県天然記念物のイシカワガエル、ホルストガエル、ハナサキガエル、ナミエガエル等の絶滅が危惧されており、動物がやんばるの小さな生態系の中で生きている。特に両生類は日本に39種いるうち、日本の面積の0.1%のやんばるに10種が棲んでおり、ヌマガエルを除く9種は琉球列島固有種である。その中で、ナミエガエルは、やんばる固有種である。また、日本のカエルで最も美しいと言われるイシカワガエルも奄美大島と本島北部の固有種である。従って、この森でこれらの稀少種が死滅すれば地球上から消滅することになり、これらの種が学術的に極めて重要であることが分かる。沖縄本島北部では、これらの動物が自然の破壊によって一挙に絶滅する可能性がある。稀少種の実態を自分の目で見ることが極めて重要と考え、本年度の調査地に加えた。

調査 (I) : 沖縄本島北部やんばる地区 (図6-2)

調査日時 : 平成13年1月27日

天候 : 晴、微風、気温 18℃ (水温 17℃)

観察個体数 : 両生類 (カエル、成体)

ハナサキガエル	37 個体
イシカワガエル	6 個体
リュウキュウアカガエル	1 個体
ナミエガエル	4 個体

両生類 (カエル、幼生)

ホルストガエル	3 個体
リュウキュウアカガエル	18 個体

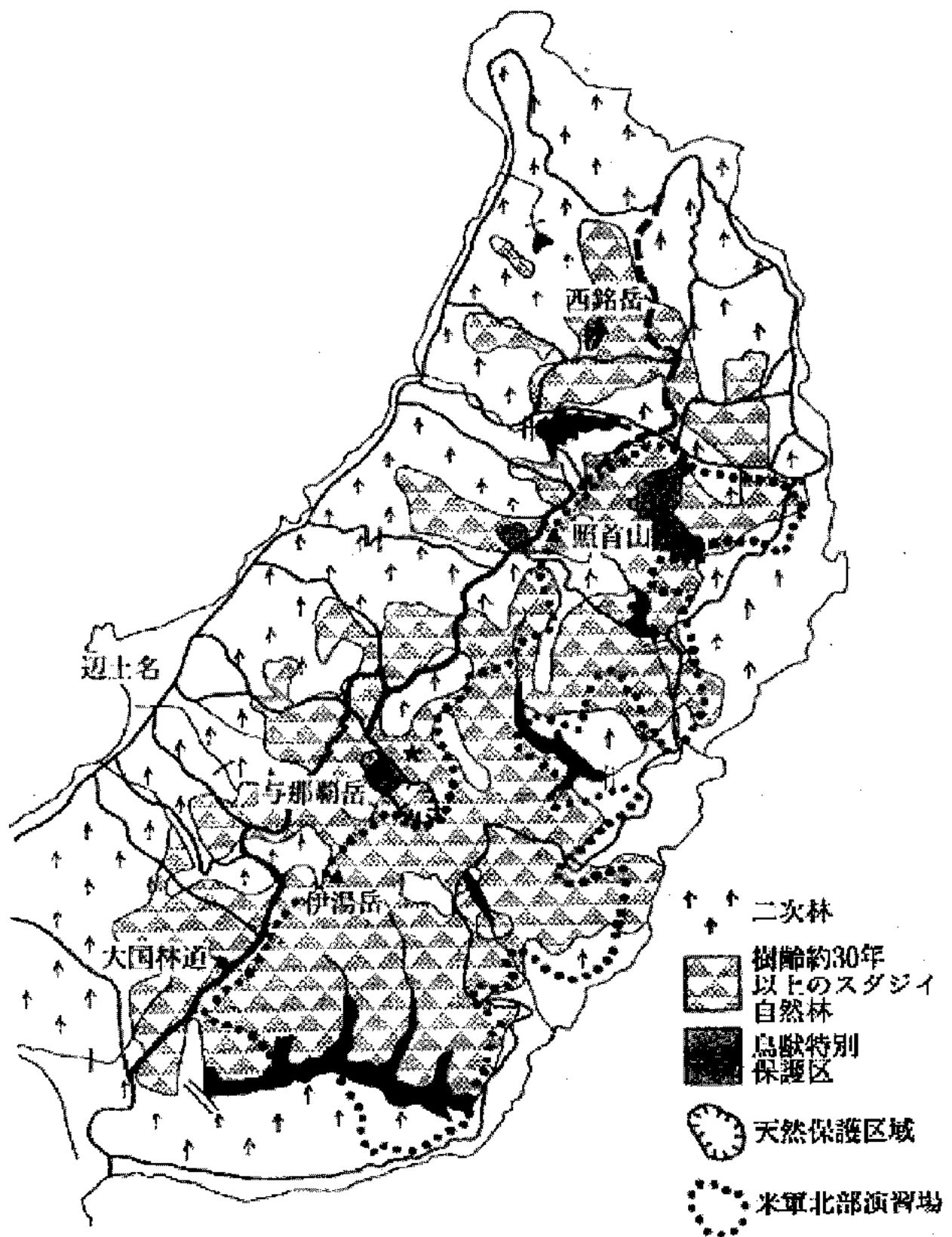


図6-1 沖縄本島北部やんばるのスタジオ自然林と米軍北部演習場（「沖縄やんばる・亜熱帯の森」平良，伊藤共著 高文研；より抜粋）